

■リサーチフェイズ

◆最初から判定可能なリサーチ項目

フェイト： ルウ、リエ

カブト：鹿鳴館すみれ、鹿鳴館剛三

ニューロ：地下鉄路線崩落事故、ミシェイラ=アイオーン

レッガー：猟奇殺人事件、鹿鳴館剛三

◆クライマックスへの必須条件（必要最低限のみ、【】はリサーチ項目）

リサーチ1→【地下鉄路線崩落事故】→リサーチ2→【事故の生存者】（アドレス獲得）→リサーチ6～9→【ルーク】及び【羽釜逢真】【カオナシ】→【潜伏先を特定する】→リサーチ10→クライマックスへ

◆リサーチシーン概要（予測）

1 シーン目：リサーチ1（カブト）

2 シーン目：リサーチ2（ニューロ）※リサーチ次第では後回し

3～4 シーン目：合流を促すと良い。リエ、すみれ、剛三に会いに行くとしてそれぞれリサーチ3～5のイベントシーンとなるが、他のキャストとの合流を平行して行くと良いだろう。順調なら5シーン目前で調べることが尽きてくる（※リサーチ3～5は必須ではないのでやらなくてもいい）。有末のアドレスに向かうとリサーチ6～9と怒涛のイベント進行となるため、その前にある程度合流を終わらせておく必要がある。イベントラッシュ後は1. ルーク、2. 羽釜→カオナシをリサーチ後、電脳でCFC内潜伏場所を突き止めるとクライマックスへ。潜伏場所へ行くためには《不可触》などが必要になるため一度情報共有のシーンを入れるといいだろう。クライマックス直前のリサーチ10を忘れないこと。

◆補足事項

- ・本アクトでは情報収集判定のみではリサーチが完了しない。得られたアドレスに向かう事が重要となる。
- ・すみれはルウの親友だったが、精神治療によりリエの事、事故の事を忘れている。問い詰めれば断片的な情報がフラッシュバックするが、彼女は苦しむのみで、自発的に話すことはできない。情報を聞き出すには《真実》が必要となる。
- ・リエ、剛三の持っている情報はリサーチ3、4を参照。
- ・リサーチ3は後回しにできる。また、リサーチ3～5はアクトの進行には影響がないため、必ずしも行う必要はない。
- ・リサーチ6で有末を救出しても、有益な情報は手に入らない。彼は、不思議な衝動に襲われみんなが1人の人間を食べてしまった、という事実は記憶しているが、事故当時は悲嘆にくれるばかりで消極的にしていたため、すみれや羽釜の事をろくに覚えていない。
- ・リサーチ7ですみれが誘拐された場合、目標に辿り着くためには、羽釜の情報を引き出すために《不可触》《電脳神》を打ち消さなければならぬ。この場合、リサーチ9でのミシェイラからの連絡は打ち消した後になる。リサーチ8はスキップされるため、すみれの《フェイト!》やSPSは得られない。またすみれはクライマックスにて精神ダメージ[精神崩壊]を受けた状態となる。

●リサーチ1：既知との遭遇

シーンプレイヤー：『②カブト』

条件：リサーチの最初のシーン

登場：不可

◆解説1

すみれと会話を行う。

▼描写1

時間は昼前。護衛を開始してから数日後。すみれと日課の買い物に出かけた帰り道。すみれは終始人の視線を避けるようにしていく。沈黙に耐えかねたのか、すみれがようやく『②カブト』に対して口を開く。

▼セリフ：すみれ

「1日1回、買い物には出かける、というのが条件だったんです。ボディガードを付けてもらうための」
「本当は、出かけたくないんですけど」（買い物の内容は日用品の他は食材が中心だが、肉類が一切ない）
「1つ、質問してもいいですか」
「そういう仕事してると、その。怪我をしったりとか、死にそうになったりとか、しますよね」
「怖く、ないんですか」
「どうしてかな、って思っ」
「すごいですね。私も、そういう風にできないかな・・・」
「怖いんです。自分でもよくわからないけど」
「よく、思い出せないんです。すごく怖いことがあった、というのは覚えていられるけど」
「ただ、怖くて。今もまだ。たくさん人がいるところとかは、特に」
「何かの事故に巻き込まれた、って。詳しい話はお父さん、教えてくれなくて」

◆解説2

リエの襲撃を受ける。リエはすぐに撤退する。

▼描写2

突如、両腕が翼状の人型のヒルコ（リエ）が上空から降り立ち、行く手を塞ぐ。すみれは『②カブト』の後ろに隠れるが、リエの姿を見ると膝から崩れ、震え始めてしまう。リエはすみれに詰め寄ろうとするが、カブトが妨害しようとするなら、両腕の翼を剣状に変化させ、戦闘姿勢を取る。

▼セリフ：リエ

「お前から、姉さんの匂いがする」
「なんだ、お前が」
「邪魔をするな。そいつを引き渡せ」

▼セリフ：すみれ

「嘘・・・なんで・・・」
「どうして・・・？ルウ・・・」（胸を押さえ、呼吸を荒くする）

◆解説3

マンションに帰った後、ルークと会話を行う。

▼描写3

遠くからサイレンの音が聞こえてきた。遠巻きに見ていたギャラリイが呼んだのだろう。「邪魔が来るのか。仕方がない」そう言い残して、ヒルコは飛び去った。すみれは過呼吸を引き起こしていたため、ひとまず部屋に連れ帰った。できるだけ安静にさせてください、と医者に念を押され、会話できる状態ではない。今は交代に来たルークと情報を共有し終えたところだ。

▼セリフ：ルーク

「まあ、だいたい話はわかったけどよ。俺達には関係ない話だな」
「なあ、『②カブト』。余計な詮索すんな、ってあのオッサン言ってたよな」
「勘弁してくれ。俺を巻き込むなよ。調べるならお前が勝手にやってくれ。俺は何も聞いてないからな」
「ちゃんと休んでおけよ。いいな、『②カブト』」

◆結末

キャストが調査に赴いたところでシーンを終了する。キーワード【鳥型ヒルコの少女】、【ルウ】を手に入れる。シーンを終了する。

●リサーチ2：真実を覆う闇は深く

シーンプレイヤー：『③ニューロ』

条件：ニューロがキーワード【情報封鎖の解除】を得た

登場：〈社会：N◎VA、テクノロジー〉10

◆解説

偽装防壁を解除するシーン。《電脳》判定で達成値 25 を出せば防壁を突破できる（報酬点を使用できる点について助言しても良い）。判定に成功すれば、キーワード【事故の犠牲者】【事故の生存者】を得る。

▼描写 1

目の前には無数の情報が飛び交う広大なストリーム。光の奔流の中から関連性を手繰った先には偽の情報が待ち構えている。この分厚い防壁を突破するのは至難の業といえるだろう。・・・ただのニューロならば。

▼描写 2

いかに強固な防壁とて、君の技術の敵ではなかった。無数のアクセスから浮き彫りになった防壁の僅かな隙間。そこを抜けた先に、君の求める情報が見えてきた。崩落事故の調査報告書だ。

まず、救援まで 1 か月を要した点について。原因は内部との連絡が完全に途絶し、内部の状況が不明だったためだ。この不自然な連絡途絶は電波妨害のようなものがあつたと推測できるが、現場周辺でその原因になるものは発見されていない。となると閉じ込められた車両内部が妨害の発信源と言う事になるが、内部の人間がそれを行う理由も見当たらず、地理的な要因のみが可能性として報告されている。

また、崩落については偶然発生したものとされているが、複数の“偶然”が重なりすぎている事から、故意に発生させられたものではないか、とする見解もある。しかし証拠らしい証拠もなく、仮に故意であるにしても動機が不明であるため、こちらも含め本件は「偶発的に発生した事故」と結論づけられている。

（《タイムリー》が使用されている。この《タイムリー》は「偶然を装い事故を起こす」ため既に使われており、打ち消す必要はない）

さらに、【事故の犠牲者】と【事故の生存者】、それぞれのリストを入手できた。リスト情報の整理にはもう少し手間がかかりそうだ。

※シーン内でもう 1 度、リサーチなどの判定をしても良いとする。登場したキャストが居れば短めの合流のシーンとして演出しても良いだろう。

◆結末

新たな手掛かりを入手したが、事件の真相はまだ遠いところにあるようだ。シーンを終了する。

●リサーチ 3：お父さんは心配性

シンプレイヤー：任意

条件：剛三に会いに行った

登場：〈社会：N◎VA、企業、ストリート〉10

◆解説

剛三に会いに行くシーン。タイミングにもよるが、【鹿鳴館剛三】のリサーチを開示した状態で問い詰められれば知っている事は教える。

▼描写

君たちは話を聞くため、鹿鳴館剛三の事務所にやってきた。

▼セリフ：剛三

「おう、何の用でい。今あちと忙しいんで手短に頼むぜ」

（自分の部下に）「手前ら、ちっと外行って一服して来いや」（キャッシュを投げる）

【猟奇殺人の調査、すみれの警護理由について質問した】

「猟奇殺人のニュースを見て以来、すみれがえええ怯えちまってる。例の事故からようやく立ち直りかけてたのに」

「理由に踏み込んだら、ちとヤベえ状態になっちまって。カウンセラーも変に刺激しねえほうがいいって言うからよ」

「安心させるために名の知れたカブト雇って、知り合いに調査を頼んだって話よ」

【『④レッガー』がいた場合】

「だますような真似しちまってすまねえな」

「ああ、俺のシマン中で部下の身内がやられたっのとは本当だぜ。まあ身内つつつてもろくな親交もなかったみてえだがな」

【崩落事故について質問した】

「娘が・・・すみれが、例の崩落事故ん時に巻き込まれてな」
「事故から帰ってきて以来、すっかりふさが込んでる」
「何も覚えてねえって話だが、とりあえず学校は休学にして、精神治療受けさせてたわけよ」

「だが個人の事情だの感情ってなあ知りたがり連中じゃあ関係ねえ話だ。そういう連中を追っ払うためにちと腕みをきかせたのさ」

（《不可触》が使用されている事、神業そのものは父親の影響力の表現としてすみれが使用している事を伝えてもよい）

「情報操作の方を申し出てくれた協力者がいてな。だが何処の誰だかは知らねえ。そっちの身元には触れねえってのが条件だったからな」

「どんなに怪しかろうが、目的が一致してんなら下手な触り方をするもんじゃねえ。敵を増やすぜ」

【『リサーチ 7:保護と誘拐は紙一重』以降/すみれ誘拐未遂の件を話した】

「なんてこった・・・それで、あいつあ大丈夫なのか?！」

「ルークの素性は確かだし、ナンバ金を積まれたところで堂々と裏切る奴とも思えねえ。って事あ誰かがなりすましてた、って考えた方が自然だな」

「そいつの正体さえわかれば居所もわかるかもしれねえ」

【羽盗についての情報を話した】

「事情はわかった。が、河渡の看板背負ってる以上、建前がねえ限り俺は表立って動けねえ」

「こっちゃん屋じゃねえからな。いくら世間様に嗅こうが意味はねえ」

「俺たちらしいやり方で行くしかねえってことさ」

◆結末

「さて、ぼちぼち時間だ。悪いが、そっちの事あ任せる」

そういうと剛三は再びトロニに向き直り、どこかと連絡を取り始めた。会話の終わりを見計らっていたのか、事務所に戻ってきた剛三の部下と入れ替わりに君たちは出発することにした。

●リサーチ 4：ヤマタイから来た少女

シンプレイヤー：任意（リエのアドレスを入手したキャスト）

条件：「リサーチ 6：最後の犠牲者」より前にリエに会いに行った

登場：〈社会：N◎VA、ストリート〉10

◆解説

序盤にリエに会いに行くシーン。一切の隠し事をせず、知っている事はすべて答える。カブトがすみれの事情を話すなり、待ってほしいと頼めば、リエは素直に了承するが、同行してほしい旨の要望は拒否する（理由を問えば「お前たちは足が重い。飛べないから」と答える）。

▼描写

鳥型ヒルコの少女・・・リエは、ヒルコ街の廃ビルの一室にいた。君の姿を見るとやや警戒した面持ちになるが、一応は話し合いに応じる姿勢を見せた。

▼セリフ：リエ

【誰だ?と聞かれた】

「私はリエ、イラムの戦士。ヤマタイから来た。お前（達）は何者だ」

【すみれに何の用だ?】

「あいつから、ルウの匂いがする」

「話を聞く。それから決める」

【すみれの状況、事情を話した】

「そうか。では仕方ないな、他を当たろう」

「よくわからないが、そいつは弱ってるんだろう?弱った相手を追い込むのは嫌いだ」

【なぜ猟奇殺人の現場に?目的は?】

「ルウを探している。私の双子の姉だ」

【『①フェイト』に手伝ってもらっている】

「私も鼻を頼りに探しているが、いつも誰かに先を越されている」

「時々、姉の匂いが濃いやつがいる。でも、見つけても皆死んでいる」

「一度だけ、殺したヤツを見た。巨大な爪をもった、クモカトカゲみたいな人間だった」（キーワード【蜘蛛脚蟻】を入手）

※フェイトにオープニングで伝えていないのは、「探偵の仕事の仕方」

を知らず「情報提供の意味」を見出していないため。探偵を祈祷師か何かだと思い込んでいるのである。なおこの事を指摘されるとごまかして逃げる。

◆結末

「ルウの匂いだ」
言うが早いのか、リエは飛び去ってしまった。その速度は尋常ではなく、直接追いつけるのは難しそうだ。シーンを終了する。

●リサーチ5：真実は人を傷つける

シーンプレイヤー：任意

条件：「リサーチ7：保護と誘拐は紙一重」より前にすみれに会いに行っていた

登場：（社会：N◎VA、企業、社交界）10

◆解説

すみれに話を聞くシーン。『②カブト』など、アドレスを知っている場合は任意に登場できるとする。『②カブト』が居ない場合、ルークも登場。

▼描写

グリーンエリア、マンションの一室。一人暮らしにしては十分に広い居間のソファに腰かけ、君はすみれと向き合い座っている。質問を重ねれば重ねるほど、すみれは怯え、苦しそうにする（〈インタビュー〉などの技能は効果が無いとする）。

キャストが《真実》などを神業を使おうとしているのであれば、先に《ブリーズ！》を使用し退場させる。これに対する打ち消しなどを考えている場合、今使えば打ち消される可能性があるとも伝えても良い（実際に、舞台裏から蜘蛛蜘蛛場が《完全偽装》を使う）。

▼セリフ：すみれ

「はじめまして、鹿鳴館すみれです。私に何のご用でしょうか」
【ルウの事、崩落事故の事、猟奇殺人の事などを聞いた】
「覚えて・・・いません」
「わかりません」
「だから、覚えていないって・・・！本当に何も知らないんです！」
「お願いだから、帰ってください！」（《ブリーズ！》を使用する。詳細な効果は「今はこれ以上聞かずに引き上げる」としておく）

※〈心理〉や〈知覚〉の判定に成功すれば、彼女が「精神的に不安定な状態」にあり、その治療のため「何か」を忘れさせられていることに気づく。彼女の部屋に心理療法医の処方薬が置いてあることもそれを裏付けている。

◆結末

まともに話もできないこの状況では、今は帰るしかなさそうだ。シーンプレイヤーのキャストが部屋を出た時点でシーンを終了する。

●リサーチ6：最後の犠牲者

シーンプレイヤー：任意（有末のアドレスを入手したキャスト）

条件：有末のアドレスに向かった

登場：全員（タイミングは任意）

◆解説1

時間は昼過ぎ。場所はストリートの路上。リエが有末に詰め寄り、何かを察したリエが攻撃しようとする。キャストが妨害を宣言しなくとも有末はキャストを盾に逃走する。リエは妨害した（あるいは盾にされた、できれば『②カブト』以外の）キャストに《不可知》からの攻撃を行い、防いだキャスト（あるいは有末をかばったキャスト）と対峙する（〈獣の一族〉の効果により、正気を失い暴走している演出とする）。

▼描写1

時間は昼過ぎ。場所はストリートの路上。夜勤明けの眠たい目をこすりながら帰宅しようとしている有末の前に、ヒルコの少女・リエが上空から降り立ち行く手を塞ぐ。

▼セリフ：リエ

「何故、お前からルウの匂いを感じる」
「お前、まさか・・・」
「殺す・・・！殺してやる！」（形相が獣のようになり、咆哮を上げる）

▼セリフ：有末

「き、君は・・・そんな、まさか・・・？」
「違うんだ。ゆ、許してくれ。あの時は・・・仕方が無かったんだ」
「お、俺だって。そうするつもりはなかった。でも、でもさあ」
「君があんなだから・・・仕方なかったんじゃないか！俺を見るな！来るなよ！」（逃走する）

◆解説2

有末は通りの向こうに逃げようとするが、続けて登場した蜘蛛蜘蛛場がすれ違いざまに《不可知》を使って殺害する（リエのものとおわせRLの手札調整に使う）。キャストが打ち消そうとしているなら、その必要はあまりない旨を伝えても良い。

尚、蜘蛛蜘蛛場のリサーチを行っていない場合、有末はそのまま退場（シーン外でヴィークルに轢かれ“事故死”する）、蜘蛛蜘蛛場はキャストの1人（レッガー、もしくはニューロが望ましい）に《不可知》を使用する。

▼描写2

一目散に逃げだした有末とすれ違うように、1つの影が交差する。（《不可知》を使用。エキストラ相手のため、判定・ダメージカードは適当で良い）有末の胸は大きく切り開かれ、蜘蛛を思わせる不気味な衣装に身を包み、巨大な爪を両手に持つカゲー蜘蛛蜘蛛場が姿を現した。

▼セリフ：蜘蛛蜘蛛場

【蜘蛛蜘蛛場のリサーチを終えていた場合】

「悪いが仕事優先だ。お前たちに隙が無かったからな。・・・俺の事を知っていたな？」（《不可知》で有末に攻撃後、爪についた血を降り払いながら）

「俺と相対するリスクを承知のうえで、ここに来た。その程度には自信か、あるいは覚悟がある」

「となると、あいつにも知らせておくべき、だな」（中空で指を動かす。誰かに連絡をしたようだ）

【蜘蛛蜘蛛場のリサーチを終えていない場合】

「隙あり、だぜ」（《不可知》でキャストに攻撃）

「ここに辿り着いたまでは褒めてやるが、敵の情報は事前に把握しておくべきだったな」

「いずみこせよ、あいつには知らせておいた方がいいかもな」（中空で指を動かす。誰かに連絡をしたようだ）

【『④レッガー』に】

「『お前が連続猟奇殺人事件の犯人だな！』、とでもいってくれないと」
「お探し相手の犯人役としては張り合いがないぜ」

「事件を嗅ぎまわってるお前は俺のターゲットなのさ。悪く思うなよ」（リエの方を見て）「見覚えのある奴が暴れてるねえ。そいつを連れて帰れば依頼主様も喜んでくれるかもな」

「だが、俺としてはここまで来たお前たちの方に興味がある。確かめさせてもらうぜ」

◆解説2

FS判定と同時にカット進行となる。詳細は「戦闘データ」を参照すること。

▼セリフ：リエ

（FS判定に成功した）「私は・・・何をして・・・？」
「すまない・・・迷惑を、かけた・・・」（気を失う）

▼セリフ：蜘蛛蜘蛛場

（FS判定に成功した）「そっちのカタがついたか。仕方ない、引き上げだ」
「勝負はお預けだ。首を洗って待っているよ、『④レッガー』」

◆結末

すみれから『②カブト』へ連絡が来るが、ワンコールで通信が途切れる（連絡を返してもつながらない）。シーンを終了する。

●リサーチ7：保護と誘拐は紙一重

シーンプレイヤー：ルーラーシーン（→最初に登場したキャスト）

条件：リサーチ6の次のシーン

登場 不可/ただし、誰かが神業の使用を宣言して以降は任意に登場できる

◆解説

リサーチ6とほぼ同時刻のため、神業を使用しなければ登場できないシーン。《脱出》《制裁》でなければ《電腦神》などの万能系神業が必要となるが、特殊な処理として《難攻不落》でルークの一撃を受け止めることで登場しても良いものとする。キャストが登場しない場合、そのまま拉致されてしまう。

キャストが登場し妨害にかかった場合、ルークはすみれをヴィークルが行き交う道路に放り投げる。《運動》判定に成功すれば無事にキャッチできる。またパリーを行うこともできるが、その場合の目標値は21。判定に失敗したり達成値が届かない場合、すみれは15+カード1枚（山札でもよい）のダメージを受ける。ルークはその隙に逃走する（妨害は不可とする）。退場前にルークは一瞬すみれの安否を確認し、ほっとした表情を見せる。

▼描写

すみれのマンション前。ルークが鹿鳴館すみれを部屋から連れ出し、ヴィークルに乗せようとしている。人目が無いわけではないが、ルークの目立つ風貌と相まって「何かあったんだろう」くらいにしか見ていない。

▼セリフ：ルーク

「おとなしく俺に来てくれ。あんたのためでもあるんだぜ？」

「聞き分けの無いオマカさんだ。手荒な真似はしたくないが、仕方ない！」（首筋に一撃を加えようと、腕を挙げる）

【『②カブト』が登場】

「『②カブト』?! なんてお前がここに・・・」

「仕方ねえ・・・ちゃんと助けるよ！」（すみれを放り投げる）

▼セリフ：すみれ

「嫌! 離して!」

「誰か・・・!」

▼セリフ：群衆

「おい、なんかヤバイんじゃない? 誘拐?」

「白昼堂々そんなことする馬鹿がいるかよ。なんかあったんだろう」

「あいつナイトワーデンのカブトだぜ。CMで見たことある」

◆結末

空からは大粒の雨が降り出す。

すみれが連れ去られるか、救出に成功（放り出された時点で気を失っている）したらシーンを終了する。

キーワード【ルーク】を入手する。

●リサーチ8：惨劇の追憶

シーンプレイヤー：『①フェイト』

条件：リサーチ7の次のシーン

登場 全員

◆解説

すみれは事故当時の記憶に蓋をしている。ルウや事故の事を問い詰めると精神的に追い詰められていくが、有益な情報を話す事はない（〈インタビュー〉などの技能は効果が無いとする）。《真実》などの神業を使えばすみれ視点での惨劇の真相が明らかになる。

▼描写

時間は夕刻、場所は指定が無ければすみれのマンションの居間。すみれは自室で休んでいる（リエを連れている場合はまだ意識は戻らず、別室で休ませている、としておく）。

※キャスト同士の相談が終わったところを見計らってすみれが登場する

▼セリフ：すみれ

【『②カブト』に】

「来るのが遅いですよ・・・本当に、怖かったんですから」

「でも、ちゃんと来てくれたから。許してあげます」

【『③レッガー』に】

「お久しぶりです。父がお世話になっています」

「でも、どうしてここに? それに、そちらの方(々)は・・・」

【前のシーンで神業を使用したキャストに】

「ありがとうございます。あなたのおかげで、助かりました」

【何かを聞いただした】

「本当に何も、覚えていないんです。それに、何かを思い出そうとすると、すごく苦しくなって。ごめんなさい」

【《真実》を使った】

「(『②カブト』に) 手を・・・握っててもらえますか」

「あの日・・・私は、いつも通りの学校からの帰り道で。ルウと一緒に地下鉄（リニア）に乗っていました」

ぼつりぼつりと、彼女の口から聞こえてくる話を総合していくと、事故の状況が浮き彫りになってきた。新皇帝大学方面から中央方面への自動運転区間、単車両のリニアに乗り込んだ乗客は突如として、閉ざされた暗闇の中に放り込まれた。乗客は当初混乱こそしたものの、その後は冷静に、励ましあいながら助けを待っていた。試供品の保存食を搬送用ドローンで運んでいた人物が乗り合わせていたため、わずかだが食料・水分を確保でき、それを分け合う事でなんとかつなげていたという。

「搬送用ドローンは1つが壊れてたらしくて。男の人達が中身を取り出そうとしていたけど、うまくいってなかったみたいです」

時間がたち、食料も飲み物も尽きたが、救助が来る様子もなく、連絡もつながらず。ただ、IANUSからのバイタルアラームの警告が頭に響く時間が続いた。それは死を予告するカウントダウンのようにも感じた、と彼女は言う。

「私、もうみんな死んじゃうのかな、って、あきらめてしまっ。でも、その時、ルウが私に言ったんです」

「私を食べて、あなたは生きて、って」

「暗がりの中だったけど。刃物が何かで、自分の首を切ったように見えました」

「そのままルウはゆっくり倒れて、動かなくな。血が、地面に広がっていった」

その時に、すごく、甘い香りがしたんです。いままでに感じたこともないような」

「私はそのときに、ああ、本当においしそうだな、って。そう思ってしまった」

だが、すみれが何かをする間もなく。車内に閉じ込められていたすべての乗客が、一斉にルウに“群がった”。男も女も。子供も老人も関係なく、互いに争うように、ルウを“食った”。その光景を見ながら、彼女は意識を失い・・・次に目覚めたときは、病院のベッドの上だった。

「その光景が本当に怖くて。だから、思い出さないようにしてたんです。何もかもから目を背けて」

「でも、本当に忘れたかったのは・・・笑い声。たくさんの人がルウに群がる中で、1人だけ離れた場所で、それを笑って見ていた人がいて」

「その声が今でも・・・耳に残っていて」

「一体、何が起きてるんですか? ルークさんはなんで私をさらおうとしたんですか」

「せっかく助かったのに。なんで皆、殺されなくちゃいけなかったんですか」

【“笑っていた男”について尋ねた】

「搬送用ドローンを連れていた、保存食を提供してくれた人です。CFCの羽釜、と名乗っていました」

【キャスト側の話がまとまった】

「皆さんに、お願いがあります。私に教えてください、本当の事を」

（『①フェイト』に）「あなた・・・探偵さん、なんですよ」

「あなたなら、真実にたどり着ける。そんな気がします」※キャストの《真実》に《ファイト!》を使用する。

【『③ニューロ』に】

「情報屋さん、なんですよ」

「『①フェイト』さんの力になってもらえませんか」

【『②カブト』に】

「目を背けてばかりじゃ、ダメなんですよ」
「怖がってばかりは、嫌ですから」
「(他のキャスト)を護ってください。本当のことを知るために。お願いします」
「私は大丈夫。暫くは、父のところにと置いてもらいます。・・・気のりはしませんけど」

【『④レッガー』に】

「『④レッガー』さん、お願いがあります」
「父のところまで、私を連れて行ってください」
※すみれをどうするかはキャスト達に決めさせること。問題なければ剛三のセーフハウスに一時避難する形になる。またリエヤルーク（本物）をガードにつけるという手もある。

▼描写：リエ ※生存している場合

「私たちイラムは、肉体を変質させて仲間を助ける能力を持っている。姉さんはあの女を助けようとしたんだろうな」
「迷惑をかけてすまなかった。何か手伝えることはないか？」

【イラム族についてリサーチを行った】

「災厄以前の話だが、私たちは人間との関わりを絶つため結界を作り、閉鎖された地域で暮らしていた」
「当然、食糧難などに陥る事も少なくなかった。そういう状況下で、種の存続をさせるための力が成長した、と聞いている」
「災厄の影響で結界が壊れ、私たちは外に出てこざるを得なかった。結界を作る知識はとうに失われていたからな」

◆結末

キーワード【羽釜・逢真】を入手する。**【SPS：隠された真実を明らかにする】を提示する。**シーンを終了する。

●リサーチ9：ターゲッティング

シーンプレイヤー：『③ニューロ』
条件：リサーチ8の次（以降）のシーン
登場 社会：ストリート、メディアなど 10

◆解説

ミシェイラが『③ニューロ』から情報を得る。場所などのセッティングは『③ニューロ』の希望に合わせる。問題なければ通話による連絡、あるいは喫茶店等で会うシーンとすると良いだろう。

▼描写

『③ニューロ』にコールが入る。ミシェイラからだ。

▼セリフ：ミシェイラ

「やあ情報屋。有益な情報は集まったかな」
【情報を渡すのを渋った、一部を隠そうとした】
「私は君を信頼して報酬を前渡しした。君は報酬を受け取った。ならば、隠し事は無しだ、情報屋。君の名誉のためにも、今ある情報を全部渡してくれないか」（《真実》を使用する。打ち消された場合《プリーズ！》を使用する。キャストが打ち消そうとしている場合、伝えても良い）
【調べた情報をすべて渡した】
「ありがとう。君に依頼して正解だった。やはり君は最高の情報屋だ」
「すみれちゃんの事なら心配ご無用だ。個人情報を守るよ。彼女のことは一切口外しないと約束しよう」
「悪魔」嘘をつかないものさ。知っているだろう？」
「次は吟味だ。これを報道する意義が、意味が、道理が、理由が、価値があるのか」
「トーキーは、世界をパレットにするアーティストだ。絵具を選び悩むのも愉しみのひとつなのさ」
【クライムトリガーの二つ名について問い質した】
「私はただ報道をしているにすぎないよ。大方、私の才能を羨む輩が流したデマ情報じゃないのかな？」

◆結末

要件を済ませると、ミシェイラは退場する。シーンを終了する。

●リサーチ10：ハンマーコック

ルーラーシーン
条件：クライマックスの直前
登場：不可

◆解説

羽釜とミシェイラが会話をを行う。

▼描写

時間は夜、場所は何処かのラボ。無数のディスプレイに様々な情報が流れていく室内で、椅子に腰かけた白衣のタタラ・・・羽釜逢真が通話相手と話をしている。

▼セリフ：羽釜

「R シリーズが末端まで広く行き渡るにはまだまだ時間がかかる。現時点での情報公開は許可できない」
「その場合は構わない。好きにしてくれ。この情報が闇に葬られるのは人類における損失だ。無論、そんな事があれば、の話だが」

▼セリフ：ミシェイラ

「君がそう望むなら、今はやめておくよ。私は弱い。何の力もないからね。でも、君にもしもの事があれば、その時は」
「ありがとう。健闘を祈っているよ」（通話が終わる）

◆結末

「健闘を祈る、か。私の死を望んでいるだろうにな。・・・悪魔め」
「さて、ディナーの準備に取り掛かりようか」
椅子から羽釜が立ち上がる。ディスプレイの1つに移っているCFCの新商品「R シリーズ」のCMがクローズアップされたところで、シーンを終了する。
「R シリーズをご存じですか？巷で噂のCFCが送る新商品！来週日曜、無料でR シリーズを味わえる大試食会を開催します！ご家族でのご参加も大歓迎！ぜひとも週末は・・・」
クライマックスへ。

●補足：リサーチ8以降のシーンについて

リサーチ9のシーンを入れる事で、羽釜やルークなど新しい項目を舞台裏でリサーチできる。その後情報共有のシーンを行い、潜伏場所の特定ができればスムーズにクライマックスへ進めるはずだ。
タイミングが合うようであれば、すみれが『④レッガー』に対し、父である剛三に迷惑ばかりかけている事、どう向き合えばいいかわからない事などを相談するシーンを挟むと良いだろう。